

「平和を祈る鐘打式」と「未来の平和を確保するための課題」シンポジウムを開催

2024年9月21日、国際平和デーに全国で「平和を祈る鐘打式」、ならびに東京都千代田区の日枝神社にて「未来の平和を確保するための課題」と題したシンポジウムが開催された。谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長の開会宣言にて幕開けした本式典には、官民ないし宗教宗派の垣根を超えた、多岐に渡る方々にご臨席いただいた。

冒頭、実行委員会の委員長を務める長谷川祐弘 元国連事務総長特別代表が開会挨拶を行い、続いて副委員長の山本忠通 元国連事務総長特別代表が発言した。その後、実行委員会顧問の大橋光夫 世界連邦推進日本協議会・世界連邦運動協会会長が挨拶を行なった。

正午になると、全国津々浦々にて「平和の鐘」が同時に鳴らされた。主会場の日枝神社

では、長谷川祐弘委員長と谷本真邦事務局長が平和への祈りを込めて和太鼓を鳴らした。会場では1分間の黙祷が捧げられ、絶え間ない平和が祈願された。そのほか、東京都の立正佼成会や神道扶桑教、京都府の三十三間堂、岡山県の黒住教をはじめ、多くの団体の協力を経て、平和の鐘が日本全国に響いた。

会場参加の来賓による挨拶では、塩村あやか 参議院議員、堂込麻紀子 参議院議員、六反田京代 外務省総合外交政策局 政策企画室長、春日静子 国連平和の鐘を守る会理事などが順に挨拶された。各立場から如何に

「平和」を捉えるか、そして如何に平和を実現できるのかなど、様々な視点から示唆に富んだ意見が述べられた。アントニオ・グテーレス国連事務総長のビデオメッセージをはじめ、代読として小池百合子 東京都知事、千玄室 日本国連協会会長、衛藤征士郎 世界連邦日本国会委員会会長の挨拶や祝辞も紹介された。

来賓の挨拶が終わると、春日 国連平和の鐘を守る会理事が小さな平和の鐘について説明をし、運営スタッフを含め会場にいる全員が平和への祈りを胸に一人ひとり鐘を鳴らした。最後に宍野史生 実行委員会副委員長が締め括りの一言を述べ、2024年度の国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式は終了した。



続いて、「未来の平和を確保するための課題」と題したシンポジウムが同会場にて行われた。

まず始めに、大橋光夫会長が基調講演を行い、平和実現に向けた日本特有の役割などを述べた。長谷川委員長による進行で行われた本シンポジウムでは、田中朋清 実行委員会副委員長をはじめ、塩村あやか議員、ハジアリッチ秀子 国連開発計画駐日代表、山本忠通 元国連事務総長特別代表、井上健 日本国際平和構築協会理事、岩浅紀久 JICA パレスチナ中小企業支援プロジェクト専門員、高瀬聖子 国連平和の鐘を守る会代表など、職種や活動分野の垣根を超えた、幅広い視座から議論が行われた。

その議論では、教育と外交の重要性が改めて強調されるのと同時に、「平和とは何か」という根本的問いに立ち戻ること、そして、その問いに対する政治的要素も加味した上で、若い世代から作る「平和のための普遍的価値観」の必要性が語られた。また、平和という分野において、日本の担える役割や責務についても再確認された。最後に、長谷川祐弘委員長による総括が行われ、谷本真邦事務局長による閉会宣言で、本年度の式典は終了した。

(世界連邦 青年会議 池上 慶徳)

世界連邦青年会議、国連 NY 本部にて「Future for Peace」カンファレンスを主催

2024年9月13日、国際連合（以下、国連）のニューヨーク本部にて「Future for Peace」と題した国際会議（カンファレンス）を、世界連邦運動協会の加盟団体である「世界連邦青年会議（旧ユースフォーラム支部）」の主催で開催した。9月は国連総会の時期であり、国連への意識が高まり、世界中で国連関連のイベントが開催される時期でもある。いわばマルチ外交への行動や提唱の月である。今年の総会は9月10日から始まり、我々も一部参加させていただいたが、13日には日本が寄贈した「平和の鐘」の式典、「平和の文化」採択記念会議（今年は25周年）、21日は国際平和デーなど、平和関連行事も次々行われた。また今年、22日から23日にかけて「未来サミット（Summit of the Future）」が開催されるため、この会議を意識して我々も13日に午後3時から約2時間、「Future for Peace」と銘打ち、日本をはじめ国連各国政府代表、国連機関、企業、市民団体が集い、平和推進をはじめとする活動や意見を発表する会議を開催することにした。

会議は、谷本真邦・世界連邦青年会議会長が議長となり、開会宣言後、世界連邦日本国会委員会会長の衛藤征士郎代議士の祝辞が代読され、日本政府を代表して志野光子国連大使より「この会議が単なる議論ではなく真の平和につながることを切に願う」とのご挨拶をいただいた。





また、日本人現職国連職員最高位の中満泉国連事務次長は「サイバーセキュリティーなどの新たな脅威に対応するためにも、同月に行われる未来サミット（本会議が提言する目的でもある）は重要であり、国連がこれらの新たな脅威を加えた安全保障問題に貢献できることを願っている」との主旨の発言をされた。

続いて、世界連邦日本国会委員会顧問の山東昭子前参議院議長が基調講演を行い、「質の高い教育とジェンダー平等の重要性」、「女性の社会進出の強化」などが「社会の変革に必要不可欠」であり、「今後も精力的に取り組む」ということを力説された。

さらに経済界からは、小高芳宗（株）ホテル三日月グループ代表が登壇、コロナウイルス感染症パンデミックの渦中におけるホテル三日月での活動を報告し、「企業としての社会貢献の取り組み」について発言され、参加者から大きな拍手が起こった。



国連開発計画副総裁で事務次長のハオリャン・シュウ氏は、「未来サミットの勢いを通じて、政府から国連まで、あらゆるステークホルダーが協働して、開発を通じた紛争の根本解決に向かう」と、この会議の意義を指摘された。

国連開発計画アラブ局長、国連児童基金代表や各国国連事務次長室長などからもスピーチをいただき、国連事務総長のメッセージも副事務総長を通じて紹介され、「未来の平和への議論」が加速した。

市民社会からは、高瀬聖子国連平和の鐘を守る会代表が登壇し、同日開催の「国連平和の鐘式典」で使用された「平和の鐘」寄贈者（父君・中川千代治氏）の「平和への想い」と、「人々が平和に向けて自分にできることをすることが重要」と述べられた。

本会議では、混迷する国際社会のなかで、諸アクターから実りある議論が展開されたので、その成果を「未来サミット」に反映していただくべく、報告文書を国連事務総長室に送った。

国連は現実を扱う場であるだけに、今まで「世界連邦」について語られることが少なかった。この日の会議では、国連事務次長をはじめ、国連高官の方々から World Federalist Movement（世界連邦運動）という言葉が何度も口にされた。また、6月に世界連邦日本国会委員会所属議員との意見交換を行なったハオリャン・シュウ事務次長からは、再度同様の会合を開くことへの要望があった。国連において世界連邦への認知度・期待度が高まっていることを感じた。今回のような国連での会議を引き続き開催し、世界連邦や世界平和への行動に邁進していきたい。

（谷本 真邦）

一般社団法人 世界連邦運動協会 加盟団体の活動紹介

4月1日から世界連邦運動協会が一般社団法人となり、支部の名称が加盟団体と変わりました。加盟団体の活動をご紹介していくことにいたします。

世界連邦・ハピネス

ハピネス発行の『はちどりクラブニュース』第46・第47号より抜粋して活動紹介をいたします。

◇ 「世界連邦運動」と「はちどりクラブ」

1948年8月6日、広島被爆3周年を期して「世界連邦建設同盟」（現在の「世界連邦運動協会」）が結成されました。2016年に参議院が「世界連邦実現」を盛り込んだ決議を採択、2019年には東京都新宿区の国際協力機構（JICA）地球ひろばで日本大会が開催され、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）国際運営委員の川崎哲氏（ピースボート共同代表）らが講演。このとき ICAN の署名活動に対する多大な貢献が認められ、はちどりクラブの隆久昌子代表が「赤松賞」を受賞。2022年12月に東京の新支部として「はちどりクラブ支部」が承認され（支部長 紺谷和久）、2024年、一般社団法人化にともない「世界連邦・ハピネス」と名称変更されました。

◇ はちどり平和祈念ツアー2024 in 広島 核兵器廃絶と永久平和を願って

2024年12月に、株式会社ハピネスは創立50周年を迎えます。「新たな半世紀に向けた成長の年に「想像力豊かに大いなる存在と和していく」ことで、どこまでも昇り高まる1年になりそうな予感があります。

2025年は「戦後80年」という大きな節目を迎えます。このタイミングで、日本から発信する平和運動も大きく前進する機会を迎えているようです。《広島平和祈念ツアー（2024.9.21-23）》は、「日本におけるこれまでの平和運動の道のりを振り返り、これからの世界平和の実現プランを考える」ことを目的として開催しました。

今回の平和祈念ツアーのテーマは、「希望の花を咲かせよう」とし、テーマに沿った「三つの希望」を掲げました。

一つ目は「核兵器廃絶の希望」です。史上初めて核兵器の標的となり破壊された広島を学び、平和の大切さを深めました。世界遺産「原爆ドーム」（爆心地から160m）から出発し、広島市平和記念公園にある国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、平和の鐘、平和の灯、原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）、レストハウス（被爆建造物）をヒロシマピースボランティアのガイド付で見学。広島平和記念資料館（本館&東館）も「音声イヤホンガイド」付での見学でした。



広島平和記念資料館に展示された「焦土に咲く希望の花カンナ」の写真パネル



二つ目は「復旧・復興の希望」です。被爆地広島の奇跡的な復興は世界的にも例がありません。その実現を分かりやすく説明した小冊子『広島の復興の歩み』（広島県地域政策局平和推進プロジェクト・チーム）を参考資料に、おりづるタワー（屋上展望台ひろしまの丘）から現在の広島市街を一望しながら、折り鶴が「希望と平和の象徴」となったドラマに想いを馳せることができ

ます。「国際平和拠点ひろしま」構想となり、海外からの復興支援を伝える貴重な施設「シュモーハウス」も訪問しました。

三つ目は「世界平和の希望」。ノーベル平和賞を受賞した NGO 核兵器廃絶国際キャンペーンの名前を冠したバラ「アイキャン」の育種家である広島バラ園（佐伯市）田頭数蔵さんにお会いして、バラに込められた平和への想いを伺いました。来年は広島県福山市で「第 20 回世界バラ会議」が開催されます。平和を願う市民による 1 千本のバラの植栽から始まった思いやり・優しさ・助け合いの心“ローズマインド”を体感しました。

想定外の学びの大きさ、深さを実感するツアーとなりました。参加いただいた方々から届いたツアーの感想をご紹介します。

・平和祈念公園は、一度は行きたいと思っていましたが、原爆ドームという実体を見て、耐えられるか、正常でいられるかという恐れがありました。行きの新幹線で、紺谷さんに「キセキのヒロシマ」を借りて読みましたが、広島の人々が、原爆投下の怒りや憎しみを超え、野球チームを作り市民が一丸となって応援することも復興の足がかりになっていたことを知り、長年広島カープファンであることが誇らしく思えました。平和祈念館を冷静に見学することもでき、戦争を絶対やってはいけないと、強く思いました。（竹内勝次）

・世界の平和、人類の完全幸福、健康をわずか 10 歳から真剣に願い、活動されてきた隆久先生の広島平和祈念ツアーに参加させていただき、感動の連続でした。今回、平和祈念資料館の附属施設である「シュモーハウス」を皆で見学することができました。アメリカ人のシュモーさんがなんとか復興の力になりたいと、たった一人から始めた活動とのこと。広島のために募金活動をし、人種を越えて仲間を募り、みんなと一緒に平和住宅をいくつも建てて助けたこと。いつも笑顔で平和を願い、韓国やアメリカにまでその活動を広げ、94 歳まで続けられたと聞き驚きました。自分もはちどり仲間として平和を願い、隆久先生の幸染め、健康活動に邁進し、いつも笑顔で仲間を作って広げ、社会に貢献していくことを強く決意しました。（瀬田留美子）



訳書紹介 3月に「世界議会」の日本語版が出版 —事前予約が始まっています—

2025 年 3 月に『世界議会』の日本語訳本が出版され、事前予約が始まっています。私たち世界連邦運動を行う者にとって必読の書と言えるでしょう。5 年もの歳月をかけて翻訳してくださったチームメンバーの原田雄一郎さんより、この本のご紹介をいただきましたので、以下に掲載いたします。（塩浜 修）

訳書紹介『世界議会 21世紀の統治と民主主義』

2025年3月刊行予定の本書は、地球と人類社会が21世紀に存続し得るか、という問題意識を背景に書かれた英語版の日本語訳である。著者は、ドイツ人のヨー・ライネンとアンドレアス・ブメルの二人。ライネン氏は欧州議会議員として、ブメル氏はNGOの「国境なき民主主義(Democracy Without Border)」の理事長として、世界議会の実現に向けて実践的な活動を行なってきた。本書を読むと、その構想の実現に向けた著者の熱い想いを随所に感じる。

本書は、第一部 世界議会の構想—その歴史と先駆者達—、第二部 21世紀の統治と民主主義、第三部 将来展望—世界民主制の設計図とその実現—の3部で構成されている。多岐に渡る豊富な文献と歴史的事実を分析し将来展望へと導いていく展開に、読者は引き込まれ圧倒されるであろう。

内容の一部を紹介する。気候変動、核戦争の脅威、パンデミック等のグローバルな課題が次第に実体的な脅威として迫りつつある現状を浮き彫りにする一方、国連など現在の国際機関では、これらの課題を克服できないと断じている。ではどうするか？ 現在の国際体制を飛躍的に変革する必要があるのは明らかであるが、その変革の目指す方向は、世界議会の設立と世界連邦共和国の実現にあると論じている。

「本書の目的はアカデミックな或いは政治的な議論を詳細に示すことではない」と著者が述べているように、構想の実現に立ちふさがる数多くの課題を取り上げ、検討を加えている。取り上げている課題は多角的でかつ具体的である。例えば、多国籍企業に対する統一的な課税システムの導入、グローバルな課税制度の創設、国際刑事裁判所の強化、常設の国連平和維持軍の創設、世界的な食糧備蓄制度の設立等が検討されている。

本書の圧巻は、「世界議会の実現と民主的な世界秩序への移行への実現可能なプロセス」を示しているところにある。しかしながら、本書は構想の実現を楽観的には考えていない。むしろ、世界議会や世界連邦は、過去の歴史を紐解いてみれば、世界的な大惨事が起こらなければ実現しないとの意見もあることを示している。国際連盟は悲惨な第一次世界大戦の結果で生まれ、現在の国際連合は第二次世界大戦後に生まれた。かかる歴史的事実に照らしてみれば、第三次世界大戦を経ずしてこの構想の実現は無いかもしれない。「しかし、第三次世界大戦のシナリオは、私たちとしては想像することさえ全く望まないシナリオである」と著者は述べている。

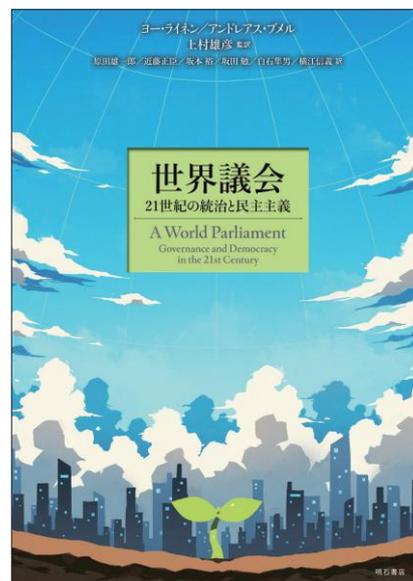
構想の実現は、「おそらく挫折と大惨事の経験を伴うであろうが、人類は、この夢を現実とすることができる。人類に未来があるとするならば、この夢を現実のものとしなければならない」とも、著者は述べている。これから進むべき道を具体的に、明確に示している本書は、専門家にとっても、これから考えようとする人にとっても有益な知識と情報を提供するとともに、読者に未来への希望とその実現に自ら取り組みたいとの意欲をもたらすであろう。

最後に、「本書が、真剣な議論を始める契機になるのみならず、世界議会の実現に向けた努力を著しく強化するものとなることを切望する」と述べている。多くの人に本書を手にとって読んでもらいたいと思う所以である。

※本書は、2025年2月末日までに購入注文をすると、定価5,280円+送料500円のところ、4,500円で購入できます。申し込み先は以下のとおりです。

明石書店

FAX : 03 - 5818 - 1174 e-mail : eigyo@akashi.co.jp



(原田 雄一郎)

世界連邦関係各団体の動き

- ・12月5日～ 世界連邦日本宗教委員会 真珠湾戦没者慰霊式・関連施設訪問 他
- ・12月7日（日本時間8日）日米合同戦没者慰霊式（真珠湾）
- ・12月21日 世界連邦四国ブロック協議会
- ・12月17日 平和を考えるフォーラム学習会（オンライン）
- ・1月1日 平和を考えるフォーラム学習会（オンライン）
- ・1月18日 はちどりクラブ 令和7年新春フォーラム
- ・2月24日 第53回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール表彰式

編集後記

☆爆撃をうけた所から埃と血でまみれた子どもたちが救出される映像がニュースで流れている。ポスター・作文コンクールの審査ではどの作品にも子どもたちの明日への希望とエネルギーがあふれている。戦火の中の子どもたちに安全で心休まる時間と場所をあたえられない現状をやるせなく思う。（川口）

☆被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞したことをこの場を借りて祝福したい。授賞式でスピーチした田中熙巳さんとは核廃絶に関するイベントで何度もお会いしているだけに感慨もひとしおである。ただ、一方、今この時期に被団協が受賞した背景には、核兵器が本当に使用されかねないという国際情勢があり、その意味では気を引き締める必要がある。（塩浜）

☆本号掲載の訳書紹介『世界議会 21世紀の統治と民主主義』は、国際連盟が第一次世界大戦、国際連合が第二次世界大戦という、どちらも悲惨な出来事の結果として生まれた歴史的事実に照らしてみれば、「第三次世界大戦を経ずしてこの構想の実現は無いかもしれない」が、「第三次世界大戦のシナリオは、私たちとしては想像することさえ全く望まないシナリオである」と、本書の著者が述べていることを指摘している。「全く望まないシナリオ」を回避するにはどうしたらよいか、私も昨今の世界の危機的状況において呻吟するフェデラリストのうちのひとりである。戦争という「最も悪質の社会的病氣」または「極悪の集団犯罪」に至らないようにするには、戦争予防の取り組みが肝心であり、そのための諸対策がなされてきたし、ある程度の成果も得られている。にもかかわらず、戦争勃発という、医療で言えば外科手術を要するような緊急事態に対しては有効な手立てを確立できないでいる。世界平和の観点からみた場合、自国ファーストであっては、結局、自国のためにもならないことを、国家権力の担い手は自覚するべきであろう。（平口）

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に「入会申し込み」と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-15-17 リッツ虎ノ門4F-BC

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org